

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4590100170 | | |
| 法人名 | 有限会社 福寿草 | | |
| 事業所名 | グループホーム 福寿草 | ユニット名 | 2号館 |
| 所在地 | 宮崎県宮崎市大字広原312番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年8月4日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年11月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kagokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kanistrue&jisyosyoCd=4590100170-00&PrefCd=45&Version=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 |
| 訪問調査日 | 平成26年9月18日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号館 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝、夜勤者からの引き継ぎの後、スタッフで唱和し、理念を共有し実践につなげている。 | | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 積極的に自治会に参加するよう努め防災訓練には地元消防団の参加を得たり、自治会活動に参加交流を務めている。 | | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 自治会の回覧板に施設たよりを毎月回覧している。地元高校の福祉科の実習生の受け入れも行っている。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進委員会は2カ月に1回開催している。ホームでの出来事などの報告を行い、各関係者、家族会の意見、要望を受け入れサービスの向上に、活かしている。 | | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 包括支援センターとは、研修会、運営推進会議などを通し、相談や、アドバイスももらっている。行政が行っている研修会にも積極的に参加している。 | | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は、玄関、居室のカギはしていない。夜間のみ利用者の安全を考慮し、玄関のカギ、出入り口のカギを閉めている。新人職員には入社研修を行っている。 | | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内、外部での研修の機会を設けている。入浴時には、全身の観察を行い、変化がある場合にはその都度確認し、対応している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号館 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 行政が行う研修会に参加。施設内での勉強会などで、必要性について考え理解を深めている。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には時間をかけて読みながら、説明する十分に理解、納得されてから、契約をいただいている。改定等は、その都度説明し、書面での同意を得ている。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 2か月に1回家族会を開催していただき、値域運営推進会議にて意見や要望を聞いている。出された意見、要望等は、会議録に残している。苦情意見があった場合には速やかに話し合いを持ちサービスの反映に努めている。 | | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の内部勉強会、毎日の申し送り等の会議を通して、個々の意見、要望、提案等の発言の場を設けている。個別面談を行い代表者に直接話せる機会を得て運営に反映させている。 | | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 自己目標を立て、取り組んでもらっている。半年後ごとに、自己、他者で評価する事で個々の存在感を高め納得性のある仕事ができる。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員が向上心を持ち、それぞれが、希望している研修を優先している。全職員が参加できるように勤務調整、時間の確保を行っている。外部研修で学んだことは内部研修にて伝達し、質の向上に努めている。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 医療、福祉、他職種による研修や交流会には積極的に参加している。それぞれの役割を理解し、信頼を深めながら指示を仰ぎときには手助けを受けながらサービスの質の向上につなげています | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号館 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人、家族の意向を確認し極力希望に沿った支援を行っている。本人が安心して過ごせるように支援している。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族との話し合いの場を随時設けており、十分に時間をかけ、要望等を受け止めている。連絡も密に行い、状況を報告しながら互いに信頼できる関係作りが出来るように努力している。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族にとって、どのようなサービスが適しているのかの見極めを行い、最も適したサービスが受けられるように努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 当ユニットは、介護度が高く一方の立場になる場合もあるが、その日の利用者の状態、気分により臨機応変な対応を心がけている | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会があった際に、近況報告を行い、家族の希望、要望を聞き、どのような支援を取り入れていくか話しあえるように努めている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会時間の制限を作らず家族がいつでも面会に来ていただけるように努めている。 | | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーション、行事などを通して利用者同士の関わりを持つ機会を作っている。意思疎通の難しい利用者様にはスタッフが関わりトラブルを回避できるように支援している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号館 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院、他施設へ移られるときは、これまでの情報、ケアの工夫等の情報を詳しく伝え安心して生活できるように支援している。また、入院した際もお見舞いに行き関係性を継続し交流を持つようにしている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者本人が希望を訴えることが少ない為、日々の行動、表情、会話の中から、本人の思いを把握できるように努めている。家族面会時にも情報を聞き活用している。 | | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族が面会に来られた時、情報を集めてこれまでの暮らしを捉えるように努めている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者の状態を記録へ残し、職員一人一人が目を通し情報の共有に努めている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月モニタリングを行い、月1回のミーティングにおいて状況を確認しあい、短期目標の評価を行っている。状況の変化に応じ介護計画を作成している。 | | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別日誌を5月より変更し、より良い気付きや職員間の共有がしやすくなった。職員の観察力も養えている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 同業者と交流する機会を持ち、交流を深め、サービスの質の向上に、取り組んでいる。 | | | |

宮崎県宮崎市 グループホーム福寿草(2号館)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号館 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の福祉祭り等に積極的に参加し、包括・値域ボランティア・自治会等の地域との連携を深めている。近くの高校生には、納涼祭に参加してもらっている。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 地域に隣接した協力医療機関とは、往診診療があり信頼関係は築いている。急変があれば、随時担当医へ指示を仰いでいる。早々に受診が必要な場合は、主治医との連携を元に適切な医療機関への受診も行っている。 | | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療機関より週1回看護師が訪問している。利用者へ変化があった場合、看護職に報告、相談を行い適切な対応ができるように連携を取っている。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入退院時には、家族、管理者が医療連携相談室などの担当者及び関係者との情報交換や相談を行い指示を仰ぎながら病院関係者との関係作りに努めている。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時の契約時に、急変時の対応・終末期をどのように迎えたいか、希望があるか本人・家族の意向を確認。ターミナルケアについての本人家族の意向については書面にて意思を確認状態の変化に応じて随時家族・医師・管理者との話し合いにて方針を共有している。 | | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 施設内研修会において取り入れ実践している。消防署にて講習会を開催できるように検討している。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災避難訓練は、定期的に行っている。津波などの水災害に備えて近くの高校とも連携を図っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号館 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 排泄誘導・排泄介助など、声掛けは利用者の耳元で行うように心がけている。居室で行う場合は、入口は閉めて対応している。 | | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 選択肢のある声かけを行い、利用者の自己決定出来るように努めている。困難な場合は、家族に情報を得ている。本人の思いに沿った支援ができるように行っている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個別対応に心がけながら、一人ひとりのペースに合わせて生活できるように支援している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人らしさは欠けているが、身だしなみは、常に整えている。意思を伝えることが困難な利用者には季節に応じた色合い、バランスを考慮し支援を行っている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と一緒に食事を摂ることで利用者が苦手な食べ物などを把握する事ができる。咽こみが少なくなるよう、自力摂取できるように声かけを行い支援を行っている。 | | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量は健康管理表に記載し把握している。食事形態も利用者に合わせて刻み、ミキサーにて提供している。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケア誘導、セッティングを行っている介助を行い異常のある場合は協力歯科医による往診を行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号館 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|-------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日中はトイレ誘導を行っている。また排泄チェック表を参考に排泄パターンを把握している。 | また、個々の体力等、考慮した上で居室のベット上による介助も行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘を及ぼさない為に水分を多く摂取していただくようにしている。食事にヨーグルト、牛乳等を提供している。場合によっては、主治医と相談し下剤の使用をしている。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週3回の入浴を支援している。場合によっては体力等も考慮した上で清拭に変更し支援している | | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の状態を観察し、いつでも本人が居室で安心して休まれるよう支援している。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬チェック表を作成している。一人ひとりの薬の目的や用法・用量の資料をファイルに閉じ職員がいつでも見られるようにしている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者一人一人の持てる力をその日の状態に応じてスタッフと一緒にお手伝いをさせていただいている。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族の希望により利用者様と外出されることもある。外出の可否、準備等支援している。 | 遠出の困難な利用者様にはホーム周辺の散歩などの支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2号館 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|-----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望があれば、自分でお金を所持できるように支援している。家族の申し入れで本人管理の方が安心されるのとことで、管理されている方がおられる。自己にて管理が困難な方は、施設で預かり金として預かり必要時応じて使用できるように支援している | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者様からの希望があればいつでも電話できるように支援している。手紙があれば、読み聞かせし、返事等代筆したりしている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアには季節折々で貼り絵、折り紙など式を実感できる工夫をしている。トイレの入り口、フロアの入りに、消毒液が散布できるようマットを敷いている。 | | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアにはソファがあり利用者同士で会話を楽しむこともできる。場合によっては、職員が会話できるように支援を行っている。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に今まで使用していた使い慣れたものを持ってきていただくことにより安心して生活が送れるように工夫している。 | | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の「できること」「わかること」を把握し残された持てる力を支援しています。 | | | |